旧簿記・会計

（全　問　必　答）

第１問　次の問い（A・B）に答えよ。〔解答記号 ア ～ ネ〕（配点　40）

A　簿記に関する４ページから９ページの問い（問１～８）に答えよ。ただし，金額の単位はすべて千円である。なお，（　）は各自で考えること。

問１　次の文章の ア ～ ウ に入る最も適当なものを，後の解答群のうちから一つずつ選べ。

仕訳帳と総勘定元帳は，すべての取引が記帳され，簿記のしくみの上では欠くことのできない帳簿であるため， ア とよばれる。 ア のほかに，必要に応じて設けられる帳簿があり，これを（　）という。（　）には補助記入帳と補助元帳がある。

取引は，まず，仕訳帳に仕訳の形で記入される。その後，仕訳帳にもとづいて総勘定元帳の各勘定に転記される。これらの記入が正しければ，すべての勘定の借方合計金額とすべての勘定の貸方合計金額は，つねに等しくなる。これを イ という。

期末に，総勘定元帳などの記録を整理して帳簿を締め切り，損益計算書や貸借対照表を作成する。この一連の手続きを ウ という。

ア ～ ウ の解答群

⓪ 集　計　表	① 主　要　簿	② 補　助　簿
③ 貸借平均の原理	④ 損益計算書等式	⑤ 貸借対照表等式
⑥ 元　入　れ	⑦ 再　振　替	⑧ 決　　算

問 2 次のａ～ｅのうち，簿記上の取引は［ エ ］個ある。［ エ ］に当てはまる数字を，解答用紙の解答欄にマークせよ。

ａ：出張に際し，旅費概算額￥50を現金で渡した。

ｂ：店舗のレジから現金￥30が盗まれた。

ｃ：新規出店に際し，月額￥700で建物を借りる契約をむすんだ。

ｄ：定額資金前渡法により，庶務係に小切手￥100を振り出して前渡しした。

ｅ：従業員を月給￥200で雇用することにした。

問 3 次の取引を分記法で仕訳した場合，最も適当なものを，後の解答群のうちから一つ選べ。［ オ ］

取引：商品￥130(仕入原価￥100)を売り渡し，代金は掛けとした。

［ オ ］の解答群

⓪	(借)	現　金	130	(貸)	売　上	130
①	(借)	売掛金	130	(貸)	売　上	130
②	(借)	現　金	130	(貸)	商　品	100
					商品売買益	30
③	(借)	売掛金	130	(貸)	商　品	100
					商品売買益	30

問 4　次の取引について，当座預金勘定と当座借越勘定に転記したものとして最も適当なものを，後の解答群のうちから一つ選べ。なお，各勘定では，この取引と関係のない記入は省略してある。 **カ**

取引：福岡商店は，×5年2月3日に，かねて鹿児島商店から商品を仕入れた際の掛け代金のうち，¥600を小切手を振り出して支払った。なお，取引直前における福岡商店の当座預金勘定の残高は¥400であり，銀行とは¥800を借越限度額とする当座借越契約をむすんでいる。

カ の解答群

⓪

当座預金				当座借越			
	2/3	仕入	400		2/3	仕入	200

①

当座預金				当座借越			
	2/3	仕入	200		2/3	仕入	400

②

当座預金				当座借越			
	2/3	買掛金	400		2/3	買掛金	200

③

当座預金				当座借越			
	2/3	買掛金	200		2/3	買掛金	400

問 5　富山商店は，補助簿として，現金出納帳，仕入帳，売上帳，商品有高帳を用いている。次の取引について，富山商店が**記帳しない補助簿**として最も適当なものを，後の解答群のうちから一つ選べ。 **キ**

取引：富山商店は，新潟商店から商品￥30を仕入れ，代金は現金で支払った。なお，商品売買取引は3分法により記帳している。

キ の解答群

⓪ 現金出納帳　　① 仕　入　帳
② 売　上　帳　　③ 商品有高帳

問 6　総勘定元帳の記録が正しいかどうかを確認するために試算表を作成する。試算表で**発見できない転記の誤り**として最も適当なものを，次の解答群のうちから一つ選べ。 **ク**

ク の解答群

⓪ 一組の仕訳の金額を貸借逆に転記した。
① 一組の仕訳の金額をいずれも借方に転記した。
② 貸借いずれか一方の金額を転記していなかった。
③ 貸借いずれか一方の金額の桁を間違えて転記した。

問 7 次の 資料 は作成途中の 6 桁精算表である。 資料 に関する記述として最も適当なものを，後の解答群のうちから一つ選べ。なお，残高試算表欄は適正に記入されている。 ケ

資料 ×5年12月31日における6桁精算表(作成途中)

精　算　表

×5年12月31日

勘定科目	残高試算表		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	1,100					
商品	400					
借入金		300				
資本金		1,000				
商品売買益		1,400				
受取手数料		100				
給料	1,270					
支払利息	30					
当期純利益						
	2,800	2,800				

ケ の解答群

⓪ 資産の勘定の金額を貸借対照表欄の貸方に書き移し，その合計額は￥1,500になる。

① 収益の勘定の金額を損益計算書欄の貸方に書き移し，その合計額は￥1,400になる。

② 当期純利益の金額は￥200になり，損益計算書欄の貸方と貸借対照表欄の借方に記入する。

③ 貸借対照表欄の借方の合計額と貸方の合計額はそれぞれ￥1,500になり，一致する。

問 8 次の総勘定元帳の締め切りに関するａ～ｄの手続きを正しい順序にならべたものとして最も適当なものを，後の解答群のうちから一つ選べ。 コ

ａ：収益と費用の各勘定の残高を損益勘定に振り替える。

ｂ：資産・負債・資本(純資産)の各勘定を締め切る。

ｃ：収益・費用の各勘定と損益勘定を締め切る。

ｄ：当期純損益を資本(純資産)の勘定に振り替える。

コ の解答群

⓪ ａ → ｃ → ｄ → ｂ　　① ａ → ｄ → ｃ → ｂ

② ｃ → ａ → ｄ → ｂ　　③ ｃ → ｂ → ａ → ｄ

旧簿記・会計

B　次の文章は，ある高等学校の商業科に通うＲさんと，簿記・会計担当のＳ先生との会話である。これを読み，12ページから15ページの問い(**問1～9**)に答えよ。ただし，金額の単位は，別途指示してある箇所を除き，すべて万円である。なお，(　)は各自で考えること。

Ｒさん：こんにちは，Ｓ先生。この前の授業で配られた［資料］の株式会社における諸取引について質問していいですか。

Ｓ先生：いいですよ。

［資料］　株式会社における諸取引

(1)　会社設立に際し，株式100株を1株につき￥5で発行し，全額の引き受け・払い込みを受け，払込金を当座預金とした。ただし，1株の払込金額のうち￥1は資本金に計上しないことにした。

(2)　当期首(4月1日)に，額面総額￥200の社債を，額面￥100(単位：円)につき￥97(単位：円)，償還期限5年，利率年2％，利払い年2回(9月末日と3月末日)の条件で発行し，払込金は当座預金とした。

(3)　株式会社の決算において，当期純利益￥100を計上した。

Ｒさん：まず，［資料］(1)の仕訳を確認していただけますか。

(借)	当座預金	500	(貸)	資本金	［シ］［ス］0
				［サ］	(　　)

Ｓ先生：あっていますよ。(i)会社法によると，払込金の全額を資本金に計上することが原則ですが，例外として払込金額の［セ］を超えない金額を資本金に計上しないことができます。

Ｒさん：わかりました。そういえば，会社の設立に要した諸費用を計上する仕訳があったと思うのですが，設立準備のために発起人が立て替えていた諸費用は，［ソ］勘定で処理すればいいですか？

S先生：はい，そのとおりです。なお，設立後の営業開始(開業)までに要した諸費用は(　)勘定で処理します。

Rさん：わかりました。ところで，会社設立後に株式を新たに発行するためにかかった諸費用は，資本金から控除できますか？

S先生：「企業会計原則」では「 タ 」と定められており，これにしたがえば控除できません。 チ 勘定で処理することになります。

Rさん：なるほど。次に， 資料 (2)の仕訳を確認していただけますか。

(借)	当座預金	200	(貸)	社債	200

S先生：勘定科目はあっていますが，金額は間違っています。この取引は，割引発行なので，額面金額の￥200ではなく，払込金額の￥ ツ テ ト で記帳され，この後，償却原価法が適用されます。

Rさん：うっかりしていました。社債の問題は，抽せん償還や(ii)買入償還についても間違えることがあるので，繰り返し勉強しておきます。最後に， 資料 (3)の仕訳 ナ も確認していただけますか。

S先生：正解です。個人企業における純利益の計上の仕訳とあわせて覚えておきましょう。このほかにも，(iii)株主総会で配当を決議したときの仕訳も復習しておいてください。

Rさん：はい，わかりました。今日はいろいろと教えていただきありがとうございました。

旧簿記・会計

問 1　会話文における［サ］に入る最も適当な勘定科目を，次の解答群のうちから一つ選べ。また，［シ］・［ス］に当てはまる数字を，解答用紙の解答欄にマークせよ。

［サ］の解答群

⓪ 仮　受　金　　① 資本準備金
② 利益準備金　　③ 新築積立金

問 2　会話文における［セ］に入る最も適当なものを，次の解答群のうちから一つ選べ。

［セ］の解答群

⓪ 5分の1　　① 4分の1
② 3分の1　　③ 2分の1

問 3　会話文における［ソ］，［チ］に入る最も適当な勘定科目を，次の解答群のうちから一つずつ選べ。

［ソ］，［チ］の解答群

⓪ 立　替　金　　① 前　払　金　　② 創　立　費
③ 開　業　費　　④ 株式交付費　　⑤ 社債発行費

問 4　会話文における［　タ　］に入る最も適当なものを，次の解答群のうちから一つ選べ。

［　タ　］の解答群

⓪　企業の財政に不利な影響を及ぼす可能性がある場合には，これに備えて適当に健全な会計処理をしなければならない。

①　資本取引と損益取引とを明瞭に区別し，特に資本剰余金と利益剰余金とを混同してはならない。

②　企業会計は，その処理の原則および手続きを毎期継続して適用し，みだりにこれを変更してはならない。

③　重要性の乏しいものについては，本来の厳密な会計処理によらないで他の簡便な方法によることも認められる。

問 5　会話文における［　ツ　］～［　ト　］に当てはまる数字を，解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 6　会話文における［　ナ　］に入る最も適当な仕訳を，次の解答群のうちから一つ選べ。

［　ナ　］の解答群

⓪	（借）	損　　益	100	（貸）	資　本　金	100
①	（借）	当期純利益	100	（貸）	資　本　金	100
②	（借）	損　　益	100	（貸）	繰越利益剰余金	100
③	（借）	繰越利益剰余金	100	（貸）	損　　益	100

旧簿記・会計

問 7　会話文における下線部(i)に関連して，会社法による会計の目的として最も適当なものを，次の解答群のうちから一つ選べ。 ニ

ニ の解答群

⓪ 法人の課税所得および課税額の計算
① 国民経済の健全な発展と投資者の保護
② 経営管理に役立つ情報提供による経営者の支援
③ 債権者や株主の保護および利害調整

問 8　会話文における下線部(ii)に関連して，次の取引について仕訳した際に，社債償還損益に関する勘定科目と金額の組合せとして正しいものを，後の解答群のうちから一つ選べ。 ヌ

取引：宮城水産株式会社は，割引発行した額面総額￥500の社債のうち￥300を，額面￥100(単位：円)につき￥96(単位：円)で小切手を振り出して買入償還した。なお，買入償還した社債の償還時点の帳簿価額は￥293である。

ヌ の解答群

⓪ 社債償還損　￥5
① 社債償還損　￥7
② 社債償還益　￥5
③ 社債償還益　￥7

問 9 会話文における下線部(iii)に関連して，株式会社が繰越利益剰余金から配当を行う場合，会社法令の規定により(　)と［ ネ ］の合計額が所定の金額に達するまで，剰余金の配当として会社が支出する額の10分の1を，［ ネ ］勘定の貸方に計上しなければならない。［ ネ ］に入る最も適当な勘定科目を，次の解答群のうちから一つ選べ。

［ ネ ］の解答群

⓪ 資　本　金　　① 資本準備金

② 利益準備金　　③ 繰越利益剰余金

旧簿記・会計

第２問　個人企業である千葉商店(決算は年１回，決算日は12月31日)は，５伝票制(商品売買取引は，すべていったん掛け取引として処理する。)を採用しており，毎月末に伝票を集計して仕訳集計表を作成し，仕訳集計表から総勘定元帳に合計転記している。

次の［資料１］～［資料５］にもとづいて，19ページから21ページの問い(**問１～５**)に答えよ。ただし，金額の単位はすべて千円である。なお，(　)は各自で考えること。〔**解答記号**［ア］～［ヒ］〕(配点　30)

［資料１］　×５年４月20日から30日までのすべての取引

20日：小切手を振り出して，現金￥200を引き出した。

22日：かねて約束手形を振り出して神奈川商店から￥250の借り入れを行い，利息￥５が差し引かれ，手取金は現金で受け取っていた。本日，この約束手形の満期日となり，手形金額を現金で支払った。

24日：茨城商店に対する売掛金の回収として，￥350が当座預金口座に振り込まれた。なお，振込手数料￥１は，茨城商店の負担とした。

26日：埼玉商店に商品￥(　)を売り渡し，代金は掛けとした。

28日：大阪商店から商品￥240を仕入れ，内金￥(　)を差し引き，残額は掛けとした。

30日：×５年４月18日に，栃木商店に対する売掛金の全額￥70(前期販売分)が回収不能となり，貸倒損失として処理していた。月末に際し，仕訳集計表を作成する前に総勘定元帳を確認したところ，貸倒引当金の残高が￥15あった。この回収不能額のうち，貸倒引当金残高を超過する金額が貸倒損失の金額となるように修正した。

資料２　×５年４月中に起票したすべての伝票(略式)

売上伝票	入金伝票	出金伝票	仕入伝票
４月３日	４月３日	４月５日	４月７日
茨城商店　330	売掛金　30 (茨城商店)	消耗品費　21	東京商店　220

売上伝票	売上伝票	振替伝票(借方)	振替伝票(貸方)
４月10日	４月12日	４月15日	４月15日
埼玉商店　300	**埼玉商店　20** **(値引き)**	買掛金　180 (東京商店)	当座預金　180

振替伝票(借方)	振替伝票(貸方)
４月18日	４月18日
貸倒損失　70	売掛金　70 (栃木商店)

ア 伝票	(　　)伝票	振替伝票(借方)	振替伝票(貸方)
４月20日	４月22日	４月24日	４月24日
(　　)　200	イ　(　)	当座預金 ウ エ オ	売掛金 ウ エ オ (茨城商店)

売上伝票	仕入伝票	振替伝票(借方)	振替伝票(貸方)
４月26日	４月28日	４月28日	４月28日
埼玉商店 カ キ ク	大阪商店　240	買掛金 ケ コ (大阪商店)	(　　) ケ コ

振替伝票(借方)	振替伝票(貸方)
４月30日	４月30日
(　　)　15	サ　15

(注)　太字は赤字記入を意味する。

旧簿記・会計

資料3　×5年4月末における仕訳集計表

仕　訳　集　計　表

×5年4月30日

借　方	元丁	勘定科目	元丁	貸　方
230	（	現　　金	（	271
（　　）		当座預金		380
（　　）	省	売掛金	省	（　　）
（　　）		（　　）		
		前払金		（　　）
（　　）		買掛金		ソ タ チ
（　　）		イ		
シ 0		売　　上		970
（　　）	略	仕　　入	略	
ス セ		消耗品費		
（　　）	）	サ	）	（　　）
2,646				2,646

資料4　×5年4月中の総勘定元帳（一部）

総　勘　定　元　帳

現　　金

	1,250		1,000
4/30	（　　）	4/30	（　　）

当座預金

	3,000		1,400
4/30	（　　）	4/30	ツ テ ト

前　払　金

	200	4/30	（　　）

（注）　摘要欄は省略してある。また，日付欄の記載のない金額は，×5年3月末までの記入の合計額である。

資料5　×5年4月末における総勘定元帳の勘定残高（一部）

現　金　¥ ナ ニ ヌ　　売掛金　¥920　　前払金　¥120

問 1　資料 2 の ア に入る最も適当なものを，次の解答群のうちから一つ選べ。

ア の解答群

⓪ 入　　金　　① 出　　金
② 売　　上　　③ 仕　　入

問 2　資料 2 の イ ， サ に入る最も適当な勘定科目を，次の解答群のうちから一つずつ選べ。

イ ， サ の解答群

⓪ 受取手形　　① 手形貸付金　　② 支払手形
③ 手形借入金　　④ 貸倒引当金　　⑤ 貸倒損失
⑥ 貸倒引当金繰入　　⑦ 雑　　損

問 3　資料 2 の ウ ～ コ ， 資料 3 の シ ～ チ ， 資料 4 の ツ ～ ト ， 資料 5 の ナ ～ ヌ に当てはまる数字を，解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 4 千葉商店は，補助簿として，当座預金出納帳，買掛金元帳，売掛金元帳を用いている。千葉商店の補助簿に関する次の(1)～(3)の文章における［ネ］～［ハ］に当てはまる数字を，後の解答群のうちから一つずつ選べ。

(1) 当座預金口座をA銀行千葉支店にのみ開設している場合，当座預金出納帳の×5年4月1日に記入される前月繰越の金額は，¥［ネ］となる。

(2) 買掛金元帳の東京商店勘定に，×5年4月1日の日付で前月繰越の金額として¥280(貸方残高)が記入されている。したがって，×5年4月末における買掛金元帳の東京商店勘定の残高は，¥［ノ］(貸方残高)となる。

(3) ×5年4月末において，売掛金元帳に設けられたすべての人名勘定の残高を合計すると，¥［ハ］(借方残高)となる。なお，×5年3月末において売掛金元帳の各勘定(すべて)の残高は，茨城商店勘定¥350(借方残高)，栃木商店勘定¥70(借方残高)，埼玉商店勘定¥0である。

［ネ］の解答群

⓪ 1,570　① 1,600　② 3,000　③ 3,350

［ノ］の解答群

⓪ 100　① 240　② 320　③ 500

［ハ］の解答群

⓪ 920　① 921　② 940　③ 941

問 5 資料 2 の×5年4月3日の売上伝票および入金伝票は，一つの取引について起票したものである。

千葉商店が3伝票制を採用し，この取引を次のように伝票(略式)に起票していた場合，入金伝票の ヒ に入る最も適当な勘定科目を，後の解答群のうちから一つ選べ。なお，得意先の商店名の記載は省略してある。

振替伝票(借方)	振替伝票(貸方)	入金伝票
4月3日	4月3日	4月3日
(　　)　300	(　　)　300	ヒ　(　)

ヒ の解答群

⓪ 売掛金　　① 当座預金

② 前受金　　③ 売上

旧簿記・会計

第3問 個人企業である長野商店(決算は年1回，決算日は12月31日)に関する次の 資料1 ～ 資料5 にもとづいて，26ページの問い(**問1**・**問2**)に答えよ。ただし，金額の単位はすべて千円である。なお，(　)は各自で考えること。

〔**解答記号** ア ～ ヒ 〕(配点　30)

資料1　×5年12月23日における残高試算表

残　高　試　算　表

×5年12月23日

借　方	元丁	勘　定　科　目	貸　方
185	(省略)	現　　金	
457		当座預金	
400		受取手形	
550		売掛金	
		貸倒引当金	4
280		有価証券	
320		繰越商品	
1,020		建　　物	
		建物減価償却累計額	136
500		備　　品	
		備品減価償却累計額	100
1,000		土　　地	
		支払手形	400
		買掛金	464
		借入金	600
		商品券	130
		資本金	2,500
50		引出金	
		売　　上	4,666
3,500		仕　　入	
580		給　　料	
90		保険料	
50		消耗品費	
18		水道光熱費	
9,000			9,000

資料2　×5年12月24日から31日までのすべての取引

24日：さきに商品代金支払いのために，岐阜商店あてに振り出していた約束手形￥100について，支払期日の延期を申し込み，承諾を得て，利息￥5を加えた新しい約束手形を振り出して旧手形と交換した。

26日：商品￥120を売り渡し，代金はさきに当店が発行した商品券で受け取った。

27日：本月分の給料￥90の支払いにあたり，所得税の源泉徴収額￥5を差し引いて，残額を現金で支払った。

29日：広島商店から商品￥200を仕入れ，代金はかねて受け取っていた山梨商店振り出しの約束手形￥200を裏書譲渡して支払った。なお，保証債務の時価は，手形額面金額の1％とする。

31日：山梨商店に対する売掛金を回収するため，当店受け取り，山梨商店あての為替手形￥250を振り出し，同店の引き受けを得た。

資料3　決算整理に先立って修正すべき事項

(1)　現金の実際有高と帳簿残高を照合したところ，実際有高の方が￥4多かった。その原因の一部として，水道光熱費￥2と売上￥5の記帳もれが判明した。残額は，原因が不明であった。

(2)　取り立てを依頼していた京都商店振り出しの約束手形￥100が，当座預金に入金されたむねの通知を，取引銀行から受けていたが，未記帳であった。

資料4　×5年12月31日における棚卸表

棚　卸　表

×5年12月31日

勘定科目	摘　要	内訳	金額
繰越商品	A商品　50個　@¥6		300
受取手形	期末残高	(　　)	
	貸倒見積額　期末残高の2％		
	貸倒引当金の設定は，差額補充法による。	7	(　　)
売掛金	期末残高	(　　)	
	貸倒見積額　期末残高の2％		
	貸倒引当金の設定は，差額補充法による。	ウ	(　　)
建物	取得原価　×1年1月1日取得	1,020	
	定額法　残存価額ゼロ，耐用年数30年		
	内訳　減価償却累計額　¥　136		
	減価償却費　¥アイ	(　　)	(　　)
備品	取得原価　×4年1月1日取得	500	
	定率法　償却率20％		
	内訳　減価償却累計額　¥(　)		
	減価償却費　¥(　)	(　　)	エオ0
有価証券	B社株式を売買目的で保有		
	帳簿価額　B社株式4株　1株につき¥70	280	
	評価益　B社株式4株　1株につき¥1	(　　)	(　　)
消耗品	未使用分		9
前払保険料	保険料　毎年4月1日に1年分前払い		
	当期に保険料の見直しは行われていない。		(　　)
未払利息	借入金¥600に対する利息		
	利率年2％　未払い分3か月		3
資本金	期首資本金	2,500	
	引出金	(　　)	2,カキ0

資料5　×5年12月31日における損益計算書と貸借対照表

損益計算書

長野商店　　×5年1月1日から×5年12月31日まで

費用	金額	収益	金額
売上原価	ケ,コサ0	売上高	(　　)
給料	(　　)	有価証券評価益	タ
貸倒引当金繰入	(　　)	(　　)	チ
保険料	シス		
減価償却費	(　　)		
消耗品費	セソ		
水道光熱費	(　　)		
ク	8		
(　　)	2		
当期純利益	140		
	4,796		4,796

貸借対照表

長野商店　　×5年12月31日

資産		金額	負債および純資産	金額
現金		(　　)	支払手形	ヌネノ
当座預金		ツテト	買掛金	464
受取手形	(　　)		借入金	600
貸倒引当金	(　　)	343	ナ	5
売掛金	(　　)		(　　)	ハヒ
貸倒引当金	ウ	(　　)	未払利息	3
有価証券		(　　)	ニ	2
商品		300	資本金	2,カキ0
消耗品		9	当期純利益	140
前払保険料		(　　)		
建物	1,020			
減価償却累計額	(　　)	(　　)		
備品	500			
減価償却累計額	(　　)	エオ0		
土地		1,000		
		4,079		4,079

旧簿記・会計

問 1　資料4 の ア ～ キ ，資料5 の ケ ～ ト ，ヌ ～ ヒ に当てはまる数字を，解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 2　資料5 の ク ，ナ ・ ニ に入る最も適当な勘定科目を，次の解答群のうちから一つずつ選べ。

ク ，ナ ・ ニ の解答群

⓪ 未払税金	① 前受金	② 商品券
③ 所得税預り金	④ 保証債務	⑤ 保証債務費用
⑥ 租税公課	⑦ 支払利息	⑧ 手形売却損

（下 書 き 用 紙）

（下 書 き 用 紙）